

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

2016.4月号
通巻 第505号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

本号の主な内容

2面 平成28年度事業計画の概要

【学会の目・眼・芽】九州の歴史的庭園の存亡

(公社)日本造園学会九州支部長・南九州大学教授 永松義博

3面 日造協 シンガポール・台北視察報告 海外視察実施予告

西武造園(株) 西谷仁宏 (株)野上緑化 野上一志

4面 【ふるさと自慢】静岡県 鈴木勝己(天龍造園建設(株))

徳川家康ゆかりの地 海・山、温泉と豊富な食

【緑滴】薪割り 喜屋武 泉(佐賀県支部・旭日緑化建設)

日造協会員の方々への「日造協ニュース」は偶数月がPDF版の配信で、印刷物の発送は行っていません。日造協ホームページなどをご利用ください。



通常理事会のようす

平成27年度
第2回

通常理事会を開催

事業計画案など6議案を審議、承認

平成27年度第2回通常理事会を3月29日、東京都千代田区紀尾井町の都市計画協会議室で開催し、平成28年度事業計画案及び収支予算案など6議案を審議、承認した。

第2回通常理事会は、まず、藤巻司郎会長が「皆様には年度末の大変お忙しいところご出席いただき、国土交通省公園緑地・景観課長の柳野様には、公務ご多忙の中、ご臨席を賜り誠に有難うございます。さて、造園建設業界を取り巻く最近の状況は、担い手3法を契機に大きく変化してきたと感じています。日造協として長年にわたって取り組んできた要望・提言活動が実を結び、労務費単価の改善、ダンピング対策の強化などが講じられるようになりました。しかし、依然として将来的な事業見通しが不透明で、前途は楽観できない状況にあり、デフレによる経済停滞過程で顕在化した技術・技能者の高齢化や若手入職者の減少と入職者の離職、技術・技能の継承の困難化等の構造的な問題への対応が喫緊の課題となっています。今後、全国組織である日造協の果たすべき役割をしっかりと心に留め、担い手3法の施行への対応や後程ご報告します「担い手の育成・確保のための行動計画」の推進などの諸活動を通じて、会員の皆様のご期待に応

えるとともに、国民の要望に的確に応え、人と自然が共生する持続可能な社会の形成に皆様と力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。皆様方には、一層のご協力をお願いいたします。」と挨拶。

次いで、国土交通省からの情報提供として、柳野良明国土交通省公園緑地・景観課長から、「都市公園緑地対策の現況」についてのご説明をいただいた。

議事では、平成28度事業計画(案)及び収支予算(案)、諸規程の改正、特定個人情報等取扱規程の制定、在宅勤務規程の制定、事務局長の承認、会員の入会の6議案を審議、承認した。

また、担い手の育成・確保のための行動計画、第42回全国造園デザインコンクール、全国造園フェスティバル2015、平成27年度資格制度の実施などについて報告を行い、閉会した。

なお、当日は、通常理事会に先立ち、総支部長等会議を開催。平成28年度収支予算案のポイント、日造協・担い手の育成・確保のための行動計画、今後の日造協運営などを議題に意見交換を行った。

人事異動

国土交通省都市局関係 (4月1日付)
大臣官房技術調査課技術開発官=石橋隆史(公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室課長補佐)
公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室課長補佐=大木雄介(住宅局建築指導課認定調査係長)
辞職(3月31日付)(横浜市環境創造局みどりアップ推進部全国都市緑化フェア推進担当部長)=五十嵐康之(公園緑地・景観課公園緑地事業調整官)
公園緑地・景観課公園緑地事業調整官=鈴木修二(独立行政法人都市再生機構)

都市再生部都市施設整備室チームリーダー
独立行政法人都市再生機構都市再生部都市施設整備室チームリーダー=片山壯二(内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所長)
大臣官房付・出向(内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所長)=戸田克穂(独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部事業企画部担当部長)
辞職(3月31日付)(兵庫県県土整備部まちづくり局都市計画課長)=佐々木貴弘(公園緑地・景観課企画専門官)
公園緑地・景観課企画専門官=平塚勇司(公園緑地・景観課課長補佐)

2面 平成28年度事業計画の概要

【学会の目・眼・芽】九州の歴史的庭園の存亡

(公社)日本造園学会九州支部長・南九州大学教授 永松義博

3面 日造協 シンガポール・台北視察報告 海外視察実施予告

西武造園(株) 西谷仁宏 (株)野上緑化 野上一志

4面 【ふるさと自慢】静岡県 鈴木勝己(天龍造園建設(株))

徳川家康ゆかりの地 海・山、温泉と豊富な食

【緑滴】薪割り 喜屋武 泉(佐賀県支部・旭日緑化建設)

日造協会員の方々への「日造協ニュース」は偶数月がPDF版の配信で、印刷物の発送は行っていません。日造協ホームページなどをご利用ください。

樹林

(一社)日本造園建設業協会業務執行理事

株昭和造園 代表取締役 卯之原 昇



“緑豊かな東京”での五輪開催に期待

2020年、56年ぶりにオリンピックが東京に戻ってきます。第32回東京オリンピック・パラリンピック(以下オリ・パラ)開催まで4年数か月、いま東京は世界で一番の都市と史上最高のオリ・パラの開催、誰もが安心して過ごせるバリアフリー環境で安全・安心な都市の実現を目指しています。

前回、1964年(昭和39年)の第18回東京オリンピックでは、選手、観光客を迎えるための高速道路、新幹線や地下鉄等の交通インフラ整備、会場周辺の幹線道路の拡幅などが進められ、戦後の東京の姿を大変貌させました。

当時のメイン会場は、明治神宮に隣接する代々木公園、神宮外苑、そして駒沢公園を中心に計画され、駒沢公園については、1940年(昭和15年)に開催予定であった第12回オリンピックでも中心会場として予定されていました。しかし、昭和12年7月、支那事変が勃発し、翌13年7月に大会開催を返上し中止となりました。

駒沢公園の建設について、三橋一也氏(元都職員)は「東京公園文庫」の中で、「昭和期の造園遺産、駒沢オリンピック公園の建設は、当時経済成長とともに徐々に向上しつつあった公共造園事業の、画期的な発展を遂げる一つの大きな躍進台となったといえる。」とし、それはいわば国家的スケールのもので、東京に限らず、全国の都市はこぞって公共造園、運動競技場の範を求めて、この方面的技術的水準を全国的に高める機会となつた。この時、造園界が果たした役割は、建設業界のそれに比べて地味だったが、歴史的に今までにない大きな足跡を残したと回想しています。関連して整備された代々木、北の丸の森林公園や甲州街道のケヤキ並木、駒沢スポーツ公園の植栽やイチョウ並木なども50年の歳月を経て立派なレガシーとして残っています。

今大会の日程は、オリンピックが(7月24日~8月9日)、パラリンピックが(8月25日~9月6日)と真夏の大会でかなりの暑さ対策が望まれます。な

ぜ「真夏に大会をやるの」とよく聞きますが、開催時期は招致の時点で7月15日から8月31日までに設定することになっており、それは、欧米のテレビで五輪競技の放送時間を多く確保し、IOCは巨額の放送権を収入の柱にしているからです。

屋内競技は、暑さ対策が可能ですが、陸上競技などの屋外競技、特に一般道路にて行われるマラソン競技は(女子8月2日、男子8月9日)厳しい条件の中でのレースが予想されます。

昨年7月~8月の都内における真夏日(30度以上)は約40日、熱帯夜(25度以上)も約30日記録されています。このような暑さの中で走るランナー、炎天下で応援する観客もまた大変です。

都の整備計画は見えない部分が多く不安ですが、せめて観客を炎天下から守る緑陰の確保は早くから進めていただけたい。現在の街路樹は、ある程度整備されていますが必ずしも期待に応えられる状況にあるとはいえません。公園や河川の緑とともに都市の骨格を構成し、人々に「やすらぎ」や「うるおい」などを与え、重要な緑の社会インフラとするためには、並木としての連続性と「枝下高」「樹高と枝張」「枝葉の密度」を揃え、統一が図られた美しさが欠かせません。

日造協は平成10年から現在まで、街路樹剪定の知識・技能を有した「街路樹剪定士」約12,500人と見本剪定指導・提案等を行うことができる「街路樹剪定指導員」約300人を輩出しています。

2020年までに樹種によっては、剪定回数が1~2回かもしれません、もし意に反する剪定が行われてしまうと、戻す時間がありません。発注にあたっては、「街路樹剪定士」や「街路樹剪定指導員」が在籍し、道路空間にふさわしい適切な管理目標の設定や品質管理・安全管理ができる企業に適切な価格で発注していただくよう切に願うところです。

2020年には、緑豊かな世界一の都市・東京で、史上最高のオリンピックが開催されることを期待しています。

公園緑地・景観課課長補佐=井上綾子(都市政策課都市環境政策室課長補佐)

都市政策課都市環境政策室課長補佐=小酒井淑乃(公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室課長補佐)

辞職(3月31日付)(長岡市統括官)=澤田洋一(公園緑地・景観課企画専門官)

公園緑地・景観課企画専門官=米山慎二(市街地整備課課長補佐)

公園緑地・景観課課長補佐=佐々木舞(総合政策局課付)

国土政策局国土情報課企画専門官=江藤洋一(公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室企画専門官)

公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室企画専門官=広田和男(大臣官房官房総務部管理課長補佐)

平成28年度

通常総会

講演会・意見交換会

6月22日(水)14:00~
ホテルグランドアーク半蔵門
東京都千代田区隼町1-1

☎ 03-3288-0111

会員の皆様のご参加をお願いいたします。

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！

平成 28 年度事業計画の概要

I 造園建設業を取りまく状況と基本的対応方向

造園建設業界を取り巻く状況は、日造協が長年にわたりて取組んできた要望・提言活動が実を結び、「担い手3法」の施行に伴い労務費単価の改善やダンピング対策の強化措置等が着実に講じられ、また公共事業費の維持・確保が図られるようになったが、依然として将来的な事業見通しが不透明で、積極的な投資判断を下すには難しい局面が続いている。また平成10年代の前半から10数年間続いた公共事業の削減、価格競争の激化、デフレによる経済停滞過程において顕在化した技術・技能者の高齢化や若年入職者の減少と入職者の離職、技術・技能の承継の困難化等の構造的な問題は、その対応が喫緊の課題となっている。

このような中、私たちは、要望・提言活動を通じた「造園」の社会認知度の向上や受注環境の改善、法定福利費の確保・社会保険等の加入促進等による雇用環境の改善、安全衛生管理の徹底による誰もが安心して健康に働くことができる職場づくり等を図りながら、次代を担う人材の確保・育成や造園力（ゆるぎない技術力・洗練された文化力・豊かな創造力）の向上とその発揮の場の拡大に力を注ぎ、時代を先取りし国民の要望に的確に応え、人と自然が共生する持続可能な社会を形成し、次世代に継承する社会的使命を果たす必要がある。

とりわけ、少子・高齢化、国土強靭化、国際化、高度情報化など経済社会の先行きを新たな視点で捉え、若手入職者の確保・育成や女性の登用、将来の発展基盤となる共通ツールの企画・開発や技術の標準化、活動の海外展開など造園建設業の明るい未来を切開く取組みを重点的に推進することが重要となっている。

また、東日本大震災復興事業・緑の再生の加速化、国土強靭化政策による防災・減災対策の実施、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた準備の本格化、観光立国として外国人観光客にとって魅力ある「おもてなし」環境の

整備への取組みなどの要請を英知と造園力を結集し、緑豊かな環境の創造・再生に貢献していく必要がある。

当協会は、公益法人改革に伴い平成24年4月に一般社団法人に移行し、平成24年度から3箇年にわたりて公益目的支出計画に基づき公益事業を実施し、当初予定どおり平成26年度をもって完了した。今後は、「第2次財政・運営中期計画」（平成27年3月30日理事会承認）で掲げた「今後の財政・運営の基本方向」に沿って、一般社団法人としての活動の強化、財政基盤の強化、会員にとって魅力ある日造協活動の展開、連携の強化による組織運営を図ることに軸足を置き、日造協活動に取組むものとする。

II 平成 28 年度事業の実施方針

魅力あふれる日造協活動を通じて造園建設業の確かな未来を築くため、「第2次財政・運営中期計画」の第2年度目として、日造協活動の展開を支える安定的な財政基盤の確保、事業運営の重点化・効率化などの対策を講じつつ、以下に重点をおき事業の展開を図る。

- (1) 担い手の育成・確保に向けた取組の強化
- (2) 造園力の発揮機会の拡大に向けた取組の強化
- (3) 資格制度の実施と各種資格の取得の促進
- (4) 事業運営の重点化・効率化と財政・運営基盤の強化・組織運営の効率化
- (5) 緑豊かな環境の再生や津波防災緑地の整備等の東日本大震災復興事業への支援

III 平成 28 年度事業計画

第1 造園技術に関する調査研究及び普及啓発事業

(1) 調査研究事業

造園技術・造園資材・造園工事施工の合理化及び造園業の経営の改善に関する調査研究として次の事業を行う。

1. 会員の実態調査
2. 社会保険等未加入対策、若年入職

者の確保策の検討

3. 造園施工技術、造園工事の安全対策の検討
4. 植栽基盤技術、植栽育成管理技術、造園関連資材の品質基準等の検討
5. 造園技術フォーラム等による技術情報の共有化
6. 街路樹剪定等に関する調査研究
7. 日造協活動の戦略的展開に関する調査研究
8. 新たな課題等に係わる調査研究

(2) 広報活動・普及啓発事業

造園建設業の社会的認知度の向上を目指とともに、様々な機会を捉えた普及啓発を推進するため次の事業を行う。

1. 公園緑地、道路、河川、港湾、自然公園、学校等の緑化行政に対する協力
2. 要望・提言活動
3. 行政との意見交換会
4. 社会貢献活動への取り組み
5. 造園・環境緑化産業振興会の活動
6. 機関紙の発行等
7. 全国造園フェスティバル等の開催

第2 造園技術に関する国際交流事業

造園技術の国際交流及び協力を推進するため次の事業を行う。

1. 国際園芸家協会(AIPH)の活動への参加
2. 造園関係の国際機関、団体との交流
3. 新たな造園ビジネスの展開と情報の収集・発信
4. アンタルヤ国際園芸博覧会視察ツアーの実施等
5. 国際園芸博覧会開催への協力

第3 造園技術者的人材育成事業

造園施工業界の次代を担う人材の育成・確保を図るため次の事業を行う。

1. 技能五輪大会参加、協力
2. 第43回全国造園デザインコンクールの実施
3. 研修会等の開催
4. 担い手の育成・確保事業の推進

第4 造園技術に関する資格認定事業

より専門性の高い造園技術者を育成し、造園工事施工管理技術、植物育成・管理技術、植栽基盤整備技術の向上を図るために、次の事業を行う。

1. 資格の認定、認定試験、更新の実施
2. 資格講習会の開催
3. 図書の刊行・販売
4. 資格制度の安定的運営

第5 会員のための福利厚生事業及び会員支援事業

会員のための相互支援を目的とした福利厚生、会員支援のため次の事業を行う。

1. 会員のための福利厚生事業
2. 研修会・講習会等の開催と紹介
3. 技術・技能の向上に向けた情報提供
4. 表彰
5. 雇用改善事業
6. 安全衛生対策の推進
7. 行政情報等の提供
8. 会員名簿の発行

第6 東日本大震災復興事業への支援東

日本大震災復興事業の加速化に対応し、被災地での緑の再生等の復興支援活動の推進を図るために、当協会に設置した東日本大震災復興支援本部・現地本部の統括のもとに、その時々の要請に応え、各方面との連絡・調整を図りながら（中略）、緑豊かな環境の再生や津波防災緑地の整備、公園緑地の災害復旧等の諸事業の円滑な推進に取り組む。

また、造園の持てる技術を発揮し、被災地の復興に貢献できるよう造園建設業の活用に関する各方面への啓発、要望を行なう。

第7 財政・組織運営

財政の安定化と組織の強化を図るために、財政基盤強化策の具体化、経費削減の徹底、会員拡大プロジェクトの推進や本部・総支部・支部の役割分担の一層の徹底・連携等による効率的・効果的な組織運営に取り組む。

また、上記諸事業の遂行のため、通常総会、通常理事会、委員会・部会、総支部・支部交流会等を開催する。

学会の目・眼・芽 第74回

九州の歴史的庭園の存亡

(公社)日本造園学会九州支部長・南九州大学教授 永松 義博

現在、日本造園学会ではランドスケープ遺産を網羅的に収集する「ランドスケープ遺産インベントリーアーカイブ」を進めています。九州支部においても「未来に残したい地域固有のランドスケープ遺産」の選定作業を行っています。

日本の庭園文化は古来より京都を中心にして発展してきましたが、江戸時代後期には、九州においても地域性を反映した独自のスタイルやデザインが生み

出されるようになります。しかし、九州では伝統的な技法の伝搬が遅れたことから、形式や様式にとらわれない新しい庭園意匠が盛り込まれて発展してきました。



九州には、歴史的庭園が集団として残る英彦山、久留米、柳川、秋月、唐津・東松浦、平戸松浦、鍋島、肥後細川、人吉相良、杵築・臼杵、薩摩、志布志、知覧、琉球、八重山の15箇所

の庭園群が存在しています。それぞれの庭園群は、郷土の自然や地形を活かし、地域の水・土・石などの素材を活用することによって、地域性や独自性を巧みに表現しています。いずれも自然風土とその土地の人々のこころがはぐくんだ個性豊かな空間の文化でもあります。

しかしながら近年、生活環境の変化に伴い、郷土色豊かな庭園が消失し始めています。1982年から実施した九州地方の歴史的庭園338箇所の調査では、2014年現在の保存・管理状況は、庭園の原形をとどめて管理状況も良好なものは74箇所(21.9%)にとどまっ

ています。庭園は原形をとどめているものの管理不十分なもの35箇所、原形とは異なるものの管理状況は良好なもの53箇所、原形とは異なり管理も不十分なもの74箇所、庭園は荒廃し放置状態のもの72箇所、既に消失した庭園30箇所です。庭園群別では唐津・東松浦、琉球、知覧では比較的管理状況が良く、一方、英彦山庭園群や杵築・臼杵庭園群では庭園の管理が不十分で次第に原形が失われていくものが多くみられます。

その主な原因是、水系利用の庭園における水位の変化や水質汚濁、他には所有権移転や空き家、高齢化による管理困難などがあげられます。これらの中には、文化財の指定を受けながらも高齢化や経済的理由による管理困難により、原形を失いつつある庭園も存在しています。

つまり、多くの庭園が都市化や地域開発による環境の変化や不十分な保全管理により衰退の危機に瀕しております。歴史的資産である庭園の抱える諸問題は、自治体や国の文化財行政に重大な問題を投げかけており、今後の文化財保護体制のさらなる整備強化が求められます。



在りし日の姿



消えゆく由緒ある庭園

海外の造園関連情報やビジネスのヒントを シンガポール・台北 観察報告

日造協では、海外からの造園関連情報の発信や造園ビジネスのヒントとなるよう観察ツアーなどを実施しています。

今回は、海外観察ツアー参加レポートと4月23日からトルコで開催される『国際園芸博覧会観察ツアー』の実施についてご紹介します。

海外観察レポート

シティ・イン・ザ・ガーデンをコンセプトに、1960年代から40年あまりの期間で緑あふれる国土へ変身を遂げたシンガポール。

緑を軸とした国づくりの手法や多彩な街路景観の創出を実現している緑地管理などの情報収集と、2010年に台北で開催された国際園芸博覧会による台北市の都市緑化への効果など、造園事業の活性化のヒントをつかむための観察ツアーを2月28日から3月3日にかけて実施しました。

City in a Garden を体感

西武造園(株) 西谷 仁宏

はじめに

今回の海外緑化観察旅行参加にあたり、初めて海外での緑への取り組みに興味を持ちました。特にシンガポールにおける国家プロジェクトとしての「Garden City」から「City in a Garden」への取り組みを体感できることに胸躍らせて日本

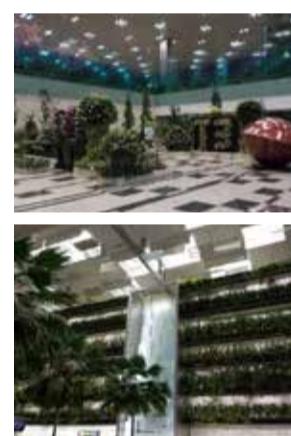
を旅立ちました。

チャンギ国際空港

シンガポールに到着してまず空港で驚きました。到着ロビーすでに室内緑化、壁面緑化のお出迎えです。高さ・幅ともに広大な空間に施され、水分や光量調節も行き届いているようで、その質の高さに驚きました。

Gardens by the Bay

空港到着が22時、それから夜の



空港内の緑化



Gardens by the Bay

台北の街路樹

(株)野上緑化 野上 一志

台湾の台北に訪問するは今回で4回目でした。北陸に住む私にとって、亜熱帯の台北市の街路樹はいつも奇異に映り、とても珍しいのでどうしても目が行ってしまいます。

また、街路樹はその街並み景観を決定づける重要な都市の「顔」なのでその地域の特徴が表れており面白いですね。

気楽な観光のつもりで参加しておりましたが日造協ニュースに掲載するレポートの宿題が課せられてしましましたので、台北市中心部で多かった街路樹を何種かご紹介します(写真1、2、3)。

これら以外にも、楓香(タイワンフウ)、樟樹(クスノキ)、大王椰子(ダイオウヤシ)なども多かったように思います。沖縄の方にはさほど珍しくないかと思ひ



写真2 重陽木 (Bischofia javanica Blume.) ※アカギ (写真右側)

ますが、そこはご容赦下さい。

台北市内も道路空間や歩道幅員は日本と変わらないほど高度利用されているにも関わらず、街路樹がのびのびと感じるのは強剪定が行われていないからでしょう。しかし、植栽枠や植樹帯は日本同様狭く厳しい場所が多いため、根上りや倒木は共通の悩みのようです(写真4)。

九州ほどの広さしかない台湾ですが、気候は暖かく、食物もおいしく、親日な

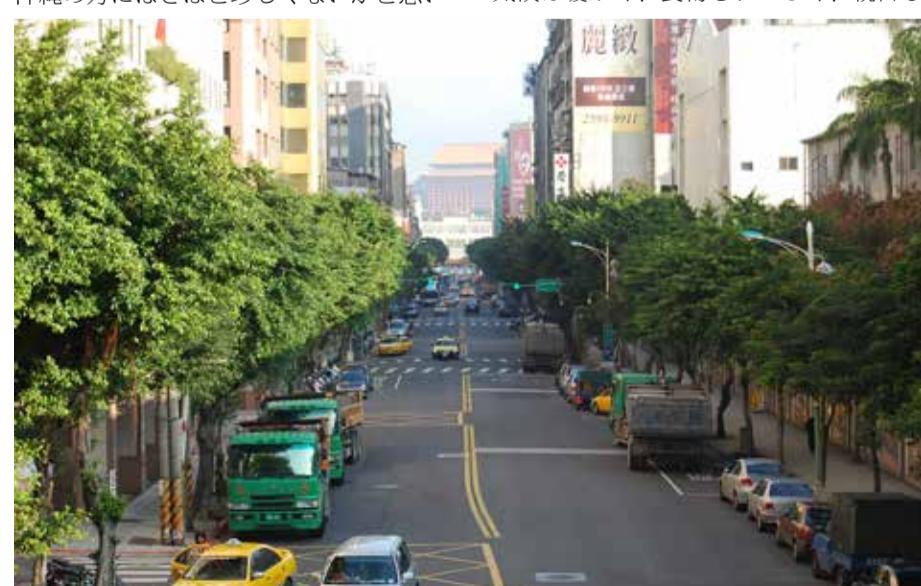


写真1 榕樹 (Ficus microcarpa Linn.) ※ガジュマル



フラワードーム



クラウドフォレスト

「Gardens by the Bay」を見学。23時にもかかわらず観光客の多さと煌々と輝くスーパーツリーの迫力に圧倒されました。

翌日改めてフラワードーム・クラウドフォレストを見学。その大きさたるや広大で、日本での温室の印象で中に入ると、外気温が高いので逆に涼しく感じました。

特に印象的だったのはクラウドフォレスト。グラスドーム内に高さ35mの壁面緑化で覆われた人工の山と、そこから流れ落ちる滝。山頂は標高2,000m、地上は標高1,000mのコンセプトで植栽されており、山頂から外部に張り出した螺旋通路を降りるのはまさにアトラクション。壁面緑化は意外と簡単な構造で、モルタルの吹付壁にヤシマットで根を巻いた植物をインシュロックで留め、水を切らさない様にしているだけのものであつたが、枯れ落ちてるものもなく、管理も行き届いている印象でした。

Botanic Gardens

52haの広大な敷地と、150年以上の歴史をもった植物園はよく管理され、観光客だけではなく、市民にも愛される憩いの場でした。特に芝生広場はきれいに維持され、刈るだけで除草剤等は散布していないとのことでした。気候や植生の関係で植物の種類が少ないのかもしれません、雑草もなくよく管理され、一般



Botanic Gardens



写真3 白千層 (Melaleuca laucaudandra Linn.) ※カユブテ

方が大変多い友好国です。また、都市緑化も日本に負けず劣らず盛んに行われ、共通する課題も多く抱えています。今後



ガジュマルの水平根が歩道平板の目地に沿って伸長している様子

更に日造協と台湾造園緑化業界の交流が盛んになりますことを期待しています。

海外観察ツアー実施予告

造園CPD単位取得可能

9月初旬 「2016アンタルヤ国際園芸博覧会とヨーロッパの公園・都市緑化観察ツアー」を実施

トルコ共和国の地中海に面したリゾート地として発展しているアンタルヤで「Flowers and Children～花と子どもたち、将来世代のための緑豊かな暮らしを拓く～」をメインテーマに最も格式の高いA1クラスの大国際園芸博覧会が開催されます。

開催期間は、4月23日～10月30日の191日間で、世界から100以上の国々や国際機関が参加する、会場面積110haあまり、入場者数600万人という大規模な園芸博覧会です。

日本国政府からは、国土交通省の日本庭園と農林水産省の屋内展示が出展がされ、わが国が世界に誇る日本の造園技術や園芸技術と花文化の魅力を紹介する展示とイベントが予定されています。

日造協では、会員企業による日本庭園の作庭や日本庭園を活用して日本の造園技術を世界に紹介する催事の実施などに協力をしています。

日本国政府出展のメインイベントとなる9月初旬のジャパンデーに合わせて、アンタルヤ国際園芸博覧会を観察し、ヨーロッパの都市を巡り最新の造園・緑化状況に触れるツアーを計画します。

ツアーの詳細は、改めてご案内いたしますのでご期待ください。多くのみなさまの参加をお待ちしています。

ふるさと
静岡県

徳川家康ゆかりの地 海・山・温泉と豊富な食

静岡県は気候が温暖で海も山もそして温泉あり、そんな地で江戸幕府270年の礎を築いた徳川家康公が薨去されて昨年で400年、県内各地で様々な事業が展開されました。

若き日々を過ごした浜松城は出世城と呼ばれ、この地を治めた城主はことごとく出世したといわれています。また、静岡市には晩年過ごした駿府城、そして近くには家康公が祀られた国宝指定の久能山東照宮があります。

静岡県の食といえば、皆さんはウナギを連想しますね。今は浜松をはじめ富士山の綺麗な湧水を使用した三島のウナギも有名ですし、伊豆地方の金目鯛や駿河湾のサクラエビなどは絶品です。他にも静岡おでんや富士宮



龍澤寺

ヤキソバ、浜松餃子などのB級グルメもいまや全国区です。ぜひ食べてみてください。

4月から放映されている朝の連続テレビ小説の舞台も遠州地方、今の浜松になります。江戸時代から綿花の有数の産地で副業として綿織物業が盛んになり、紡績工場が地場産業として発展してきました。

た。注染の浴衣などは手間がかかり今は高級品として寵愛されています。

また、来春の大河ドラマの主人公『井伊直虎』の井伊家菩提寺として、遠州の名刹と名高い龍潭寺があります。寺伝によると小堀遠州作庭の池泉観賞式庭園があり、四季折々の風光と調和した名庭は国指定の名勝として、訪れる人の目を楽



久能山東照宮



サクラエビ

しませています。

ぜひ、これから季節、食・花・自然体感・歴史散歩に静岡県へ遊びにきてください。

鈴木 勝己（天龍造園建設株）



三島のうなぎ、浜松餃子、静岡おでん



浜松城

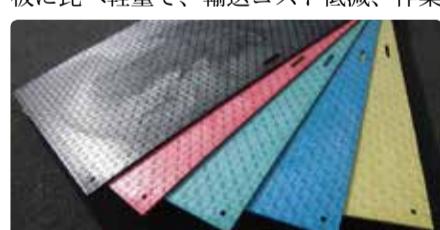
日造協賛助会員の紹介 株ウッドプラスチックテクノロジー 木材利用でCO₂排出抑制 日造協向けに特売中

弊社は、東京大学で開発されたウッドプラスチックを用いた樹脂成型品メーカーです。ウッドプラスチックは製材工場の副産物（おが粉）とプラスチックを複合した素材で、製品をご使用いただく事によりCO₂排出抑制に貢献できます。

工事用養生敷き板Wボードは、敷設板に比べ軽量で、輸送コスト低減、作業

の安全性向上、騒音抑制などのメリットがあり、国土交通省のNETISにも登録されています。現在、日造協会員限定ホームページにて限定特価販売中です。ぜひこの機会にお試しください。

（株）ウッドプラスチックテクノロジー
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学アントレプレナーライズ201
TEL:03-5844-3366 FAX:03-5844-3367
<http://www.wpt.co.jp> (日造協向けに特売実施中)



工事用養生敷き板Wボードは敷設板に比べ軽量、コスト低減、騒音抑制などにも貢献

事務局の動き

【3月】

- 2(木)・(一社)日本公園緑地協会国際委員会
・総務委員会（広報活動部会）
- 8(火)・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
- 10(木)・自民党各種団体協議会懇談会
- 11(金)・街路樹剪定士認定委員会（試験部会）
- 14(月)・AIHPスプリングミーティング～17
- 16(水)・街路樹剪定士認定委員会
- 17(木)・資格制度委員会（新資格制度検討チーム）
- 22(火)・総務委員会（財政・運営部会）
- 28(月)・運営会議
- 29(火)・総支部長等会議
・第2回通常理事会

【4月】

- 1(金)・春の都市緑化推進運動～6/30

委員会等の活動

- 総務委員会（財政・運営部会）
平成28年度事業計画案・収支予算案等について審議した。諸規程の改正、特定個人情報取扱規程等の制定について審議した。(3/22)
- 資格制度委員会（新資格制度検討チーム）



薪割り

佐賀県支部
(株)旭日緑化建設
喜屋武
泉

当社の事務所では、薪ストーブを使用しているので薪割りをする機会がある。

伐採してきた樹木をチェーンソーで手頃な大きさに切り揃え斧で割っていくのだ。

斧での薪割りは、昨シーズンまで会長の日課となっていた。なので私は、チェーンソーで切り揃える作業までしかしていなかったのだが、今シーズンは、薪割りにチャレンジしてみることにした。

薪割りをしてみていくつか気付いたことがあった。

今まででは、何も考えずにチェーンソーで手頃な大きさに切るだけであったのだが、薪を割る時に立て置き易い様に斧を入れ易い様に切っておくことが大事なのである。

少しでもガタガタになっていると割る時に立て辛いのである。

立て辛いからと言って逆さまにしても、結局、斧が入れ辛いのでダメなのだ。

薪割りをスムーズにするためには、切り揃える段階から木材を丁寧に切り揃えておくことが大事なのである。

そして、綺麗に割るのがなかなか難しい。



たとえ薪が置き易く斧が入れ易い状態であっても綺麗に割れないものである。

私は、薪割り初心者なので、置いてある薪に斧をクリーンヒットさせること自体が難しいので、最初に少し薪に斧を入れてから振り下ろすやり方をしているのだが、それでもなかなか綺麗に割れないものである。

斧の入れ具合が浅いと、振り下ろしている最中に薪が飛んで行ってしまったり、斧がちゃんと入っていても、力が足りずに斧が途中で止まってしまうよりもするのである。

そんな状態なので、稀に一発で綺麗に割れた時の達成感、充実感、爽快感は、なかなかのモノである。

そして、昨シーズンまで日課にしていた会長は、やはり只者で無いのだとしみじみ感じるのである。



薪ストーブ

●事務局

自民党都市公園緑地等整備促進議員連盟総会が平成21年以来、7年振りに開催され、会長等8名が出席した。(3/24)

編集後記 今年も桜の開花とともに新入社員が入社してきました。彼ら彼女の成長を期待とともに、どう育てていくか悩む季節です。